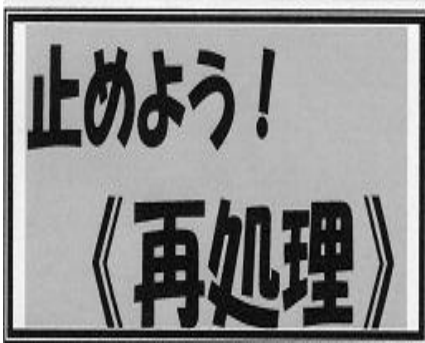


**三陸の海を放射能から守る
岩手の会**

郵便振替 02240-5-102650
ホームページ《再処理／岩手の環境》
http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm
《まった再処理分庫》
http://briefcase.vahoo.co.jp/kimag



《天恵の海》

2013(平成25)年
9月9日
第131号
編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

**時間が止まったゴーストタウン
《2013年7月25日》の我がふるさと**

チェルノブイリ 11倍の放射能も!
完全閉鎖地区基準の (土壌)

福島原発事故現地報告



倒壊家屋もそのまま

「立ち入り制限」とされている福島原発事故周辺の村や町はどうなっているのか?
チェルノブイリ原発事故の深刻な被害の実情を伝え続けてきた広河隆一氏、藤田祐幸氏、広瀬隆氏が、『DAYS JAPAN測定班』を組織し、七月二五日に「警戒区域」「帰還困難区域」「居住制限区域」「避難指示解除準備区域」に入り、現状の取材と放射線の測定を敢行しました。「広野から檜葉・富岡・大熊・双葉・浪江まで、行けども行けども廃墟が続く。全てが失われたゴーストタウン」とする報告が『3・11 D A Y S 行動する会』発足集会でなされました。
(写真は 発足集会資料から)

福島事故周辺地区空間線量の測定値

場所	原発からの距離	マイクロシーベルト/時	平常値(0.05 μSv/h)の何倍か
双葉北小学校校庭	3km	8	160倍
双葉町住宅	3km	20	400倍
双葉町農民広場		55	1100倍
大熊町広域避難場所	2km	320	6400倍

測定中の3氏



三〇キロ続く廃墟
原発事故現地は時間が止まったよう。車窓から眺める風景は、二年半前の三陸の大津波被害直後のような惨状のままでした。人々が立ち入ることができないので、倒壊家屋がそのままにされ、家や畑は荒れ放題。住民のふるさととは「死の街」でした。

福島事故周辺地区土壌の測定値(セシウム137)

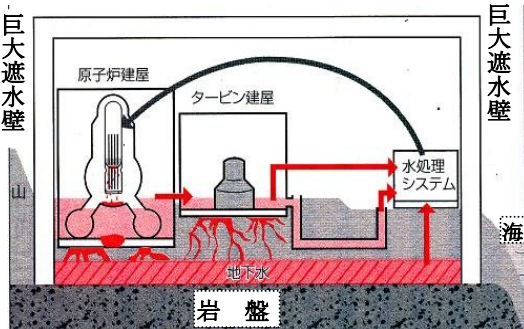
場所	ベクレル/kg	ベクレル/m ² (換算)	チェルノブイリ「完全閉鎖地区」の何倍か
双葉北小学校校庭	3万	195万	148万Bqを超える
双葉町住宅	7万	460万	3倍
双葉町農民広場	27万	1700万	11倍
* チェルノブイリ完全閉鎖地区			148万ベクレル/m ² 以上



凄まじい放射線
放射線の測定値は、左図の通り、凄まじい値です。チェルノブイリの完全閉鎖地区の土壌の十倍の値(セシウム137)の地区がありました。
この測定班の報告は『DAYS JAPAN』九月号と、ウェブ『日々雑感』(広瀬隆氏)に詳細な報告が載っています。

福島原発 汚染水流出深刻化

二年半、何をしたのか？



福島第一原発の汚染水流出が深刻さを増しています。「メルトダウンした原発を巨大地下ダムで覆うしかない」という提案は事故直後から公表されていきました。上図はその一例です。

『そもそも総研・原発・電力編』八九頁
玉川徹・著(二〇一一年九月二〇日刊) 講談社

福島原発事故訴訟団が

“公害罪”で告発

九月三日、福島原発事故訴訟団の武藤類子団長ら三人は汚染水の流出を止められない東京電力と幹部を、「人の健康に係る公害犯罪の処罰法第三条」の違反で福島県警察本部に告発しました。記者会見では「事故直後遮水壁を作る計画もあった。東電は地下水への対策や管理義務を怠り汚染水を流出させた」とする告発理由を述べました。

高濃度汚染水が流出していた。

参議院選挙終了後、汚染水流出について東電と政府はその実態を公表しました。

七月二七日東京電力は、海側トレンチに溜まった水から一リットルあたり二三億五〇〇万ベクレルの放射性セシウムが検出されたと発表しました。八月八日、政府の原子力災害対策本部は原発の地下から一日で約三〇〇トンの汚染水が海に流

出していると発表しました。さらに八月二二日、東電は保管タンクから約三〇〇トンの高濃度汚染水が漏れたと発表しました。

東電は海への汚染水の流出量は、一日でストロンチウム90が三〇〇億ベクレル、セシウム137が四〇〇億ベクレルと試算し、二〇一一年五月から現在までの総漏出量は、ストロンチウムが七千億〜一〇兆ベクレル、セシウム137は二十兆ベクレルと見積られるとしました。

レベル3の異常事態

このタンクからの汚染水漏れについて原子力規制委員会は「レベル3相当」の重大な異常事態と発表しました。福島第一原発の付近を流れる地下水は一日約千トン。いったい、

これまでどれだけの放射能が海洋に流れ出て、今後もし流れるのか。太平洋の広範な海域が汚染される恐れが高まっています。

巨大な遮水壁で囲め

反原発の識者は早くから、地下水対策とし

核のゴミを次世代に残すな！ 3.11 DAYS 行動する会発足集会



八月十八日、横浜市の開港記念会館で市民約五百人を集めて、「原発稼働阻止、核のゴミを次世代に残すな」をテーマに、シンポジウムが開催されました。秋の闘いにむけ、意気高い熱気ある集会でした。(〇)

集会は、広瀬隆さんの「福島原発事故現地地ゴーストタウンの報告」をスクリーンに映し出しながら進められました。

まず、全国原発から出る核のゴミが青森県六ヶ所再処理工場に押し付けられ、特に高レベル放射性廃液が著しく危険な存在となっていると岩手の大信田からアピールがあり、特別参加の山本太郎さんがドイツの高レベル廃棄物の恐るべき実態を語り、藤田祐幸さんが福島事故現地の放射線の測定結果を語りました。

「海を汚さないで！再稼働よりも放射能汚染対策に集中を！」という市民の集会があり、政府を迫りました。この席で「事故収束作業の責任官庁はどこか？」との質問があり、政府側は答えられませんでした。東電や国の責任者は刑事告発・告訴されま

続いてソユーズ宇宙飛行士でその後福島県で農業を営んでいた秋山豊寛さんが、「簡易測定器がピーピー鳴り始め逃げた。被曝し難民となり怒りでいっばいだ」と訴え、東海第二原発廃炉を闘う相沢一正村議が「原発に穴を開けるベントを前提にして原発を語っている。とんでもない」と憤怒。新潟柏崎市議の矢部忠夫さんは「柏崎原発事故は危機一髪だった。あそこで原発をやめていれば福島事故はなかったかも」と嘆息。原発銀座の福井県小浜の住職中野哲演師は「九月一五日で大飯原発は止まる。この一年の二基稼働で約二〇〇億kwアワー・四千億円の電

気を作ったが福島原発約二千発分の核のゴミも作った」と語り、元国会事故調委員の田中三彦さんは「一号機で、吹き抜ける四階の天井蓋が吹き飛んでいる。四階で爆発があった証拠。この水素は原発の部位が地震によって損傷し発生した」と指摘。広河隆一さんはチェルノブイリで犠牲になった子供たちの写真を映し出し、福島の子供たちのための沖繩県久米島の保養所のことを語りました。